

薬剤科 DI ニュース

<肺炎球菌とワクチンについて>

肺炎球菌は、グラム陽性菌の一つで、呼吸器感染症の病原体の中では最も病原性が強いといわれています。特徴として、構造上、菌体の表面に多糖体（ポリサッカライド）性の莢膜を持ち、白血球などによる食作用や補体から防御されています。この莢膜は、組成の違いにより現在 90 種類以上の型に分類され、それぞれ抗原性を持っています。肺炎球菌に感染した場合は、感染した型に対してのみ抗体が作られます。肺炎球菌ワクチンは、90 種類以上の型の中で感染する機会の多い 23 種類の莢膜ポリサッカライドが含まれています。このため、1 回の接種で 23 種類のほとんどの型に対し有効レベル以上の免疫ができ、すべての肺炎球菌による感染症の約 8 割をカバーできるといわれています。

～肺炎球菌ワクチン～

>商品名：ニューモバックス（万有製薬）

>接種時期：1 年中いつ受けてもよい

>接種回数：1 回のみ（追加免疫や再接種は禁忌）

>効果持続期間：1 回の接種で 5～8 年は効果が持続するといわれている

>保険給付について

保険適応：「2 才以上の脾摘患者における肺炎球菌による感染症の発症予防」のみ

※「高齢者の肺炎球菌による感染症の予防」などは自由診療

※ニューモバックスの接種は、公費助成を行っている市町村もある

>インフルエンザワクチンとの併用：不活化ワクチン同士なので、接種間隔は原則 1 週間以上

Q1. 肺炎球菌ワクチンの接種回数はどうして 1 回なのですか？

A1. 海外で過去に、肺炎球菌ワクチンの接種歴のある患者へ短期間のうちに再接種した場合、著しい副反応（注射部位の疼痛、紅斑、硬結等）を起こす可能性が高くなるという報告があったためです。しかし、その後、この副反応を防ぐために再接種時期の検討が行われ、接種時期を調整することで、米国をはじめ世界各国で、ハイリスクの人に再接種が承認されています。現在、日本でも、再接種を可能にするような対応が進められています。

Q2. 肺炎球菌ワクチンは、誤嚥による肺炎に対して効果がありますか。

A2. 誤嚥性肺炎（嚥下性肺炎）は、高齢者等が寝ている間などに、口中の唾液や食物残渣、胃から逆流した内容物（食物・胃液）などを気道側へ誤嚥し、誤嚥物の中で繁殖している細菌類によって肺炎を発症するものです（強酸である胃液による化学的な肺炎もあります）。誤嚥性肺炎の原因菌は、インフルエンザ菌、黄色ブドウ球菌、ブランハメラ・カタラーリス、セラチアなど様々な菌が関与していると言われていますが、「寝たきり高齢者の肺炎の多くが誤嚥性に起因するものと思われること」や最近発表された「寝たきり高齢者における肺炎球菌ワクチンの予防効果がある」ことから、肺炎球菌に関与する誤嚥性肺炎にも効果が示唆されてきています。

(野村)